| 科目ナンバリング | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名<br><英訳> | 科学論Ⅰ<br>Philosophy and History of Science I | | | 担当者所属<br>職名・氏名 | 人間・環境学研究科 教授　青山　拓央 | | |
| 群 | 人文・社会科学科目群 | 分野(分類) | 哲学・思想(基礎) | | 使用言語 | 日本語 | |
| 旧群 | A群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | 講義（対面授業科目） |
| 開講年度・<br>開講期 | 2024・前期 | 曜時限 | 月5 | 配当学年 | 全回生 | 対象学生 | 全学向 |

**[授業の概要・目的]**

本授業では、ある具体的なテーマに関し、科学が何を見いだしてきたか、そして、哲学では同テーマをどのように扱ってきたかを解説し、その比較を通じて科学の特性を理解していきます（担当教員の専門は哲学）。具体的なテーマとしてはとくに「自由意志」を取り上げ、それにまつわるさまざまな科学史・哲学史（とりわけホッブズ以降の約３５０年ほどの近現代哲学史）を参照していきます。「人間の意志ではなく脳が行為をさせている」といった、近年耳にする機会の多い言説が、どれだけの正当性を持っているのか、さらに、そもそもこの言説は何を「意味して」いるのか、こうした問いを掘り下げることで、科学論の一つの在りかたを提示します。

**[到達目標]**

「自由意志」の科学と哲学をめぐる諸研究を知り、その論点を学ぶとともに、科学的研究の特性を、歴史をふまえて理解できるようになる。

**[授業計画と内容]**

下記の５つのテーマに沿って、「科学とは何か」「自由とは何か」を考えます（授業の進行具合に応じて、どのテーマに何週をあてるかを変更する場合があります）。

１．ガイダンス・科学的研究の特性について＃１（第１週）
２．自由意志の科学と哲学＃１（第２週～第５週）
　（リベットやメレなどの議論を紹介。）
３．因果関係と自然科学について（第６週～第９週）
４．自由意志の科学と哲学＃２（第１０週～第１３週）
　（インワーゲンやケインなどの議論を紹介。）
５．これまでのまとめ・科学的研究の特性について＃２（第１４週）

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

レポートにて成績を評価します。採点基準はやや厳しめで、講義内容を十分に理解しているかと、自分の考えを論理的に説明しているかを中心的に評価します。

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

（参考書）
青山拓央『時間と自由意志:自由は存在するか』（筑摩書房）ISBN:978-4480847454

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業前の予習はとくに必要ではありませんが、授業後の復習は十分に行なってください。

**[その他（オフィスアワー等）]**

教室収容人数に応じて、受講者を制限することがあります。授業での積極的な質問・発言を期待します。